

平成22年度第1回富士見市生涯学習推進市民懇談会会議録

日時 平成22年5月14日（金）10:00～12:00
場所 中央図書館 集会室
出席者 ○市民懇談会委員

委員長	副委員長				
小塚	荻島	岩田	岡本	桐生	佐藤
○	○	○	○	○	○
清水	田中	鳥澤	森本	横田	我彦
○	○	○	○	○	○

○事務局

【協働推進課】山岸課長、吉岡副課長、吉野

【生涯学習課】永瀬課長、佐藤、高見

1. 開会あいさつ 小塚委員長

2. 議題 議事進行 小塚委員長

(1) 報告事項

①生涯学習推進委員会について

- ・平成21年度の取り組み、第1回推進委員会の協議内容等について事務局より報告を行った。

②その他

- ・生涯学習推進基本計画の策定に係わる今年度の予算、基本構想（教育文化部会）の状況、キラリ☆ふじみのキャンセル料、県内の推進体制の調査結果について事務局より報告を行った。

委員長) 昨年度に行われた事業仕分けに伴い、生涯学習に関わるもので今年度の予算に反映されたものはあるか。

事務局) 生涯学習課では成人式・地域子ども教室が事業仕分けの対象になったが、予算付けに大きな影響はなく、前年度ベースの予算となっている。

(2) 協議事項

- ①次期生涯学習推進基本計画の策定にむけて ～全体総括～
資料に基づき、事務局より説明を行った。

委員長) 資料の中で柱的に追加されたものとしては、情報拠点の施設のネットワーク化、世代間交流の学び、施設職員の役割となっているが、よろしいか。(特に意見なし) 協議した中で特に印象に残っているものをあげると、近隣市町・団体との交流・情報交換に着目し視野を広くしたほうが良いといった意見。超高齢社会の中で生涯学習と捉えるか、高齢者福祉という視点で捉えるか、後者の方が行政も進めやすいし市民としても活動しやすいのではないかとこの社会状況・構造に即応したほうが良いといった意見。また、町会の主催で生涯学習活動を行えば市民に対して身近で力があるので、インパクトが大きいと考えるし、ある程度の規模で活躍する団体になるとボランティア精神を持って活動する集団・個人となっている場合が多く、それが推進力になっている。公民館の学級やコミュニティ大学等であり、そのような活動を行っている方への激励をどうするのか、つながりをどのように持たせればさらに拡充できるのか、といったものがあつたと思う。また、行政側の主な取り組みとしては出前講座・人材バンクがあり、人材バンクに関しては人材バンク推進委員の会という市民の大きな力で発展しているし、出前講座も町会・コミュニティ大学等で多く利用されていると思う。

皆さんも感じている点をお話いただきたい。

委員) 行政は町会を上手く利用していただきたい。今までのただの住民の親睦団体・自治組織という認識・位置付けでは困る。今後は行政の地域組織を賄う組織という気持ちを持つ必要がある。というのも行政は財政難であり人員削減を進めているが、職員の削減は市民サービスに直接影響が出てしまうので、地域の住民がその一端を担う必要がある。そのような意味では行政が主体的にリードする仕組みづくりが必要になる。任意でお任せではなく、町会の役割等を新住民に説明してもらう必要があるし、町会組織の整理も今後は必要になる。

委員) 次期計画の大枠の捉え方についての共通認識が必要である。高齢者もその一つであるが、若いうちから生涯学習に触れることも大切であり、次期計画では老若男女の全ての年齢を対象に進めていく必要がある。

委員) 基本構想の懇談会でも生涯学習と社会教育等の分けについて意見が出ていたが、その辺りを知らないと一般の市民は話に乗れないと感じる。生涯学習には趣味等あらゆるものが含まれると理解

してもらいが必要であり、一層の周知・浸透が必要である。

委員) 生涯学習とはこういうものであると具体的にイメージできるものが必要であり、生涯学習そのものがわからないと計画についても協議できないと感じる。

委員長) 生涯学習の対象者は全年齢ということに同意見であるが、年齢構成的に高齢者が特徴的になっているので、絞れば高齢社会が重要になると考えたところである。また、生涯学習を具体的にイメージできるものについては、地域懇談会資料(案)の中にも盛り込む必要があると考える。

振り返ると、生涯学習に関わるいくつかの大きな出来事があったと考える。行政としては人材バンク・出前講座の開始があるし、高齢者の学習としてはこうれい大学の廃止に伴うコミュニティ大学の誕生がある。コミュニティ大学に関しては、運営委員会を人材バンクに団体登録したことで、自分たちの活動だけでなく、他団体等との協力の中からさらに新しい友人ができ、市役所も身近になったと感じるようになった。施設の有料化も大きな出来事であり、その功罪はどうか、総括する必要がある。また、先ほどの推進体制の調査結果によると、所沢市が生涯学習推進組織本部を置いているのに注目した。当市も推進委員会はあるが、本部までの位置付けではないので、本部の設置を行うような時期ではないかと考える。

副委員長) 何事もそうであるが、組織がしっかりしていないといずれ関わる物事は衰えてしまうので、当市ではしっかりとした推進体制の組織を作る必要がある。市の中でしっかりとした推進体制の形を整え、その下でそれぞれの部局が活動すれば、積極的に生涯学習が展開されると考えられるので重要なことである。

委員) 推進体制は非常に重要である。全庁的な体制を整えているところも多いが、なぜ本部が必要かという理由立てとビジョンが重要であり、生涯学習をどう活用してまちづくりを行うのかという目的が必要である。また、組織としてまとまらないと進展しない。富士見市は生涯学習を使いどういうまちを作るのか計画の中で見えてくるように、富士見市としての色付けが必要である。最近の動向を見ると、過疎地域は福祉との連携、都市部は多様な学習サービスの整備という方向が見える。一方で位置付けがわからないまま上手く使えないと市長部局へ移行してまちづくりに利用しようとするが、大義名分がつけられない状態となってしまう。富士見

市のデータを見ると、昼夜の人口差が激しいのが特徴である。すなわち移動が激しいということなので、会社帰り等に魅力的な場所があれば寄って学びやすいともいえる。千葉県習志野市の秋津小学校の学社融合の話聞いた事がある。新興住宅地で昼間は人がいなくなるベッドタウンであるが、仕事帰りに小学校に立ち寄って活動が行える、いわゆるご飯を作って食べられるというような触れ合える場所がある。ベッドタウンを逆手にとって活動を広げているし、土日は住民が在宅しているので、老若男女が集まれる拠点にするという両方の戦略で行っている。富士見市の特徴を基本としつつ生涯学習はこういうものであると言葉だけではなく体験として若い人に広めていけるような計画づくりを行いたいと考える。

委員) 一般的・理念的に横断的な組織があったほうが良いと創造できるが、所沢市で実際に上手く機能しているのか、実態を掴む必要があると思う。

委員) 生涯学習を市内に広めるためには、富士見市にとっての生涯学習とは？もそうであるが、あなたにとっての生涯学習とは？という視点の捉え方が必要であり、そうしないと発展しない。また、資料の中で公民館の利用状況があったが、南畑公民館の利用者数が平成17年度から18年度にかけて大幅に減少している。理由がわかれば教えていただきたい。

事務局) 減少の理由については、確認してから改めて報告させていただきたい。

※数値に誤りがありましたので資料を別添のとおり訂正いたします。

委員) さいたま市で開催された学びピアを見てきたが、その中では朝霞市のよさこいと東松山市のスリーデーマーチの展示の観客が多く、市の特徴も出ていて強い印象を受けた。比べて当市は観客も少なく寂しい感じを受けた。

委員) 生涯学習を行いたいという気持ちは色々な世代が持っており、多様な立場の意見を取り入れて生涯学習を進めていければ良いと考える。

委員) あなたにとってという理論はとても良いと考える。ただし、生涯学習への理解がないと進まないと思う。また、生涯学習の基本理念は人と人とのコミュニケーションにあると信じている。生涯学習の中には個人で活動する人もいれば仲間と活動する人もいる。

個人での学習も当然可能であるが、次のステップとしてどこかで発表したいという願望も生じるので、その際に生涯学習という接点があれば良いと思う。そういった意味では市民大学に期待しており、活発に活動しているし、もっと広がると感じている。また、私は生涯学習と福祉と切り離れたほうが良いと思う。生涯学習は生涯学習として自分の目標を持つことで健康に生きられる。リカレント教育に生きがいを感じるといったように、福祉にもつながるかもしれないが、健康にして豊かな生活を求めることが生涯学習のありようを考える。また、あなたにとって生涯学習は何ですか？は理論的にすばらしいし、生涯学習を一人ひとりにどう浸透させていくのかは重要である。例えば、ミニカーを多く所有している人が、その趣味を通じて仲間が増えるといったような趣味の延長も生涯学習であるといった位置づけであれば理解しやすいのではないかと思う。また、人材バンクと出前講座をドッキングして行っているところはなかなかない。昨年八潮市を視察したが両者をドッキングしており、項目もわかりやすく、活発に活動しているという印象を受けた。人材バンク推進委員の会の立場からすると人材バンクと出前講座の活動の接点は同じではないか、自治基本条例の中でうたっている行政と市民の協働の精神ではないかということで、ドッキングすれば市民にも権威性を持たせることができるので望ましいと考える。

委員) 人材バンクの営業に歩いているが、出前講座と別々に動いていてはもったいないと常に感じており、一緒に活動したほうが効率も良いと考える。

委員) 生涯学習と社会教育の認識をしっかり持つ必要がある。国をはじめ行政側が社会教育から生涯学習にシフトしており、公民館は老朽化が進み修繕が必要であるものの補助金も出なくなり、施設は交流センターやコミセンに変わってきている。生涯学習は経済的に豊かになって個人が自己責任でいかに人生を豊かにするかといったものであり、極端に言えば、行政は施設を用意するものといえる。当市でも公民館は4館になっているが、現実には社会的に行政が関わらざるを得ない様々な状況があり、現代的課題を取り上げざるを得ない状況である。コミュニケーションや社会的連帯の希薄化が現実的にでており、それを解決しなければいけないときに今の生涯学習の理念でいいのか問われていると考える。現実には教育委員会と市長部局と一緒にやらざるを得ないような状況

になっており、今までの公民館は地域社会の課題を取り上げて解決するために学んでいたが、最近ではサークル活動が活発になり、それ自体は良いことであるが、一方では社会との連帯や行政とのかかわりが薄れてきている。公民館的な仕事を他の施設でもできないのか、そのためには行政は縦割りではだめであり、協働して行わざるを得ないと考える。公民館のあり方について、公民館運営審議会の答申の中でも論議されているが、学校教育と社会教育との問題や福祉、まちづくりとの関わりと全てが関わってきている状況であり、総合的に考えていくためには生涯学習という最初の理念とは変わってきているのではないかという部分から現実とのギャップも取り上げなくてはいけないのではないかと考える。

委員) 地域懇談会資料(案)の説明の中に具体例を盛り込んだほうが良いと考える。また、具体例としてコミュニティ大学の活動を紹介しますと、当初130名の定員で開始したが、現在は200名を超えており、場所の確保にも苦勞している状態である。同大学は運営委員会のメンバー24名と数名の顧問で運営しており、年間計画を立てて生徒・仲間とともに自治会を作って役員を選出したり、目的・カリキュラムに応じたプロジェクトチーム(5~10名)を作ったりして、旅行・展示会・ウォーキング・会報の作成等を行っている。また、講座として出前講座や人材バンクを利用したり、大学の講師を招いたり、課外活動として趣味に応じてクラブ活動を行ったりもしている。また、卒業後も同窓会を作って旅行や親睦会を行っているし、サークル等を作って活動している人たちもいる。ただし、サークルの活動場所の確保に困っているとの話を聞いており、公共施設では月3回の場所の確保も難しいという状況である。また、基本構想の懇談会でも質問が出ていたこうれい大学の廃止について、今後はどうするのか、どのように総括されたのか知りたいとの話は懇談会後にも出ていた。なお、現在のコミュニティ大学の活動はある意味モデル的な存在になっており、人員増が現在の悩みでもあるので、今後は有機的に動いて、教室のいらぬウォーキングやゲートボール等の活動を検討していきたいと考えている。

委員) 生涯学習活動を行うには身体が資本であるし、ウォーキング等されている方も多く体を動かすことを楽しんでいる。その際に遺跡や馬頭観音等の位置を示すはっきりとした地図があると良いと感じる。志木市では河童の像がどこにあるのか等の地域的な細かい

地図がある。当市もボランティアで全市的な地図づくりを進めると生涯学習活動にも役立つと考える。

委員) 他市区町村で文化財マップをもらっているが非常に役に立つので、当市でも必要性を痛感する。

事務局) 以前、2市2町の頃に作成したが、現在は出されていない。

委員) ホームページ化したり、さらに市民からの情報を行政が確認し追加したりしていけばより充実したものになると考える。

委員長) 委員一人ひとりの意見を聞かせていただいたが、これから起草委員会で徐々に文章化していく作業が始まるので、皆さんの発言の趣旨を生かしてまとめていきたい。あなたにとって、このまちにとって生涯学習とはなんですか?という問いかけから優しくわかりやすく始めたほうが良いとの意見や、生涯学習は建物で分けられるものでもないし、当市の特徴を前向きに活かした内容にすべきであるといった意見を次回につなげていきたい。また、南畑公民館の利用者数の確認、所沢市の実態については事務局に調査をお願いしたい。

②市民懇談会のスケジュールについて

資料に基づき、事務局より説明を行った。

③地域懇談会の開催について

資料に基づき、事務局より説明を行った。

事務局) 地域懇談会につきましては、広報等で周知も行いますが、委員の皆様にもチラシの配布等、周知にご協力をお願いしたい。

④起草委員会の設置について

資料に基づき、事務局より説明を行った。

委員長) 起草委員会の設置についてはよろしいか。⇒了承

事務局から正副委員長に加えて2～3名の参加をとのことなので、参加を希望する方がいればお願いしたい。特にいないようであれば事務局から提案があればお願いしたい。

事務局) 女性の立場であり、基本構想審議会委員という立場でもある田中委員、新計画づくりということから学識経験者である森本委員に参加いただければ。⇒田中委員、森本委員了承。各委員拍手にて承認。

(3) その他

次回の日程

平成22年7月23日(金) 午前10:00～

中央図書館 集会室で開催

3. 閉会あいさつ 萩島副委員長

- 資料
- ・[平成21年度]生涯学習推進にむけての取り組み状況
- ・生涯学習担当の部局・課所等に関する調査について
- ・生涯学習の担当課所に関する調査まとめ(H22.2月)
- ・平成21年度に協議した施策の柱・展開すべき施策・課題等
- ・[平成22年度]富士見市生涯学習推進にむけての取り組み予定(案)
- ・地域懇談会開催日程表(案)
- ・第2次生涯学習推進基本計画地域懇談会(案)
- ・第2次生涯学習推進基本計画地域懇談会アンケート(案)